

第2回 日独グローバルヘルス会議 開催のお知らせ

2017年にドイツ・ハンブルグで開催されたG20サミットにおいて初めてグローバルヘルスが主な議題となりました。2018年のG20サミットはアルゼンチン・ブエノスアイレスで開催され、2019年6月には日本で初めてのG20サミットが大阪で開催されます。G20大阪サミットではG20ハンブルグで話し合われたグローバルヘルスの様々な課題や加盟各国の役割などを受け継ぎ、グローバルヘルスの重要性をたゆむ事なく世界へ発信していく機会となります。今回開催する日独グローバルヘルス会議では、日本とドイツに加えて、中国、韓国、インドネシア、インド、アルゼンチンなど、世界中から研究者を迎え、ディスカッションやスピーチセッションを行います。そして、G20ハンブルグ・サミットでの政策提言をレビューし目標と課題を明確にする事で円滑に政策提言が引き継がれるよう議論を行います。

日時	2018年9月6日(木) 10:00~16:30 *9:30 受付開始
会場	国立国際医療研究センター 国際医療協力研修センター5階・大会議室
アクセス	http://www.ncgm.go.jp/access/index.html
テーマ	グローバルヘルスにおけるドイツと日本の役割 ~G20ハンブルグから G20大阪へ~
言語	英語(日本語通訳なし)
共催	国立国際医療研究センター 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター (iGHP/NCGM) ジュネーブ国際開発研究大学院グローバルヘルス・センター (GI/GHC) ベルリン日独センター (JDZB)
協力	早稲田大学 The BMJ 日本国際交流センター (JCIE)
参加費	無料(事前登録制)

スケジュール

- 10:00 開会
※総合司会：勝間靖 iGHP グローバルヘルス外交・ガバナンス研究科長、早稲田
大学教授
開会挨拶：明石秀親（NCGM 国際医療協力局 運営企画部長）
- 10:15 大会テーマと背景説明
- Prof. Ilona Kickbusch
Global Health Center (GHC), The Graduate Institute
 - 勝間靖
- 10:30 第1部 パネルディスカッション
G20 ハンブルグ・サミットと保健大臣会合のレビュー～今後の課題～
[講演者]
- Mr. Tobias Bergner, Federal Foreign Office, Germany
 - 池田千絵子（厚生労働省総括審議官 国際保健担当）
 - 紀谷昌彦（外務省 中東アフリカ局アフリカ部・国際協力局参事官、
TICAD 担当大使）
- [座長]
- Prof. Ilona Kickbusch,
Global Health Center (GHC), The Graduate Institute
- 12:00 休憩
- 13:30 第2部 スピーチセッション
グローバルヘルスにおける新興経済国の役割
[講演者]
- Prof. Gabriel Leung
Dean, Li Ka Shing Faculty of Medicine, Hong Kong University
 - Prof. Minah Kang-Kim
Department of Public Administration, Ewha Woman's University,
Republic of Korea
 - Ms. Rina Agustina
Chair, Human Nutrition Research Center, Faculty of Medicine,
University of Indonesia
 - Mr. Devi Shetty, Chairman, Narayana Health, India
 - Prof. Andrés Pichon-Riviere
School of Public Health, University of Buenos Aires;

Director, Institute of Clinical Effectiveness and Health Policy,
Argentina

- Prof. Peng Gong
Chair, Center for Earth System Science, Tsinghua University

[討論者]

- 明石秀親 (NCGM 国際医療協力局 運営企画部長)
- Ms. Ines Alpert, Embassy of Germany in Tokyo

[座長]

- 勝間靖

15 : 00 第 3 部 スピーチセッション

G20 大阪サミットにおいて、健康を政治的優先課題にするために ～日本とドイツが協働できる事とは？～

[講演者]

- 武見敬三 (参議院議員)
- Prof. Till Bärninghausen, Heiderburg University, Germany
- 戸田隆夫 (独立行政法人 国際協力機構 上級審議役)
- Mr. Harald Zimmer
Deputy Chairman of the German Network for Neglected
Tropical Diseases;
Head of International Relations of the Association “Research
Based Pharmaceutical Companies”

[座長]

- Dr. Kamran Abbasi, Executive Editor, The BMJ

16 : 30 閉会

「第2回 日独グローバルヘルス会議」シンポジウム開催報告

2018年9月6日、国立国際医療研究センター(NCGM)グローバルヘルス政策研究センター(iGHP)は、「グローバルヘルスにおけるドイツと日本の役割：2017年G20ハンブルグサミットから2019年G20大阪サミットとその先へ」と題し、第2回日独グローバルヘルス会議を主催しました。同会議の開催は、ジュネーブ国際開発大学院グローバルヘルス・センター(GI/GHC)及びベルリン日独センター(JDZB)との共催、早稲田大学、英国医学雑誌(BMJ)及び日本国際交流センター(JCIE)との協力で行われました。

上記会議の目的は、2017年G20ハンブルグサミットで達成されたこと、依然として残されている特出すべき課題をレビューし、G20を構成する新興ドナー国がG20サミットで期待されていることは何かを明らかにし、日独がその実現プロセスをサポートする方法について議論するとともに、日独がG7及びG20の議題に関し、様々な点でタイムリーに国際保健をインプットできる方法を模索し、2030年までに持続可能な開発目標(SDGs)を達成することでした。

本会議は3つのセッションから構成されており、その概要は以下のとおり。

1. 「2017年G20ハンブルグサミット及び保健大臣会合に関する反響：何が達成され、何が特に残されたか」

(座長：イローナ＝キックブッシュ GI/GHC 教授)

議論に先立ち3名のパネリストからそれぞれ発言がありました。池田千絵子・厚生労働省総括審議官(国際保健担当)は、日本の国際保健政策2017-2020における主な出来事について説明しました。トビアス＝バグナー独連邦外務省国際保健問題外交政策調整官は、過去のパンデミック事例で示されているように、マルチセクターでの取り組みと日独間のパートナーシップが重要であると主張しました。紀谷昌彦・外務省参事官/TICAD担当大使は、近年の日本主導の保健コミットメントを振り返り、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を前進させるための活動について述べました。

このセッションでは、パネリストはG20の役割とリーダーシップ及びG20の議題に関連する国内問題の重要性について議論しました。

2. 「国際保健における新興経済の役割」

(座長：勝間靖 iGHP/早稲田大学教授)

香港、韓国、インドネシア、インド及びアルゼンチンの5名の演者より、新興ドナー国がG20サミットで期待されていることについての発表がありました。各国の演者からは、財政の効果的活用、効果的なデータの活用とプレイバシーに関する情報の保護、UHCと栄養問題を関連付けるマルチセクターシステム、適切な優先課題設定、ガバナンスにおけるマルチセクター問題、例えば高齢化社会、移民者の保健、偽薬対策等の既存の保健課題について機能できる能力を結び付けるメカニズムの創設等、各国が抱える問題、課題について発言がありました。

日独の登壇者は、G20の潜在能力とプライベートセクターを巻き込むことの重要性、学際的な協力、省庁間協力が必要であることを言及しました。また、政策は様々なアクター及びプラットフォームにより形成されることができるとは、行動するための戦略が必要であること、G20は国際保健のために共同で行動することにより戦略的介入のための重要な役割を担うことができると述べました。

3. 「2019年G20大阪サミットにおいて保健を元首及び政府の「政治的優先事項とする」

(座長：カムラン＝アバシ BMJ 編集長)

日独の4名の演者から、日独の役割と協働の分野に関する発表がありました。武見敬三参議院議員は、当該国の財務省へ影響を及ぼすことの重要性について述べるとともに、国及び国際レベルで協働するよう奨励しました。ティル＝ベルニンハウゼン・独ハイデルベルグ大学教授は、共同研究機会及びUHC研究の資金獲得の機会を含めて、科学に基づいた協働を提案しました。戸田隆夫・国際協力機構(JICA)上級審議役は、重大な変化には多面的、多層的、同時及び持続可能な方法が必要とされており、G20はこのための重要な役割を担っているとの意見を提起しました。ハラルド＝ジマー・顧みられない熱帯病(NTDs)のためのドイツネットワーク副議長は、保健を開発の主流にすることを含め、保健システム強化、UHC、能力開発、NTDsと併存する疾患、田舎の開発と栄養とのセクター交叉介入及びパンデミックへの備え等、いくつかの焦点を当てるべき分野での協働領域を数え上げました。パネルディスカッションでは、聴衆から、日独がデリバリーメカニズム、累進課税及び累進保険料の革新に苦しんでいる国々を援助する必要性等、様々な意見がありました。水、衛生及び公衆衛生等の伝統的な保健分野以外の分野についても同様に協働すべきであるとの発言もありました。

最後に、キックブッシュ教授より、2030年より前にUHCが達成されるよう、日独が、各地域毎に1か国について協力して援助してはどうかとの提案が示唆されました。

当イベントへの参加者数は約105名。全てのセッションでそれぞれ質疑応答が行われ、闊達な議論が展開されました。

